

ANNUAL REPORT 2018

アニュアルレポート

株式会社イボキン

〒671-1621
兵庫県たつの市揖保川町正條379番地
TEL 0791-72-3531

www.ibokin.co.jp

IBOKIN

すべての“今”を資源に 確かな“未来”を産みだしていく



CEO MESSAGE 代表ご挨拶

世界に誇る 日本の都市資源をムダにしない

日本は戦後廃墟の中から猛烈に立ち上がり、その勤勉さと素晴らしい技術力をベースに、アメリカに次ぐ経済大国へと発展してきました。その姿は当時発展途上であったアジア諸国に希望を与え、そして日本に追いつき追い越せといったベンチマークの大きな役割を果たしてきたと思います。こうした先人達の努力のお陰で国が整備され豊かな生活へと変化していく中で、多くの資源が都市のインフラの中に蓄積されてきました。ビル、工場、橋梁、機械設備、自動車、家電、携帯端末等々…これらは日本の誇る技術の産物であると同時にかけがえない財産です。この豊富な都市資源は今では13億トンと推定されこれも世界第3位の蓄積量となっています。天然鉱山の少ない日本であるにもかかわらず、これまでみんなで残してきた豊富な都市鉱山は今や日本の誇る重要な資源となっています。しかし都市鉱山は天然鉱山と違い都市部にあるのでいかにして安全かつ安心に資源を抽出できるかが大変重要となって参ります。特にこれからの30年間はオイルショック期からバブル期までの間に建てられた膨大な量の建物、プラントが建て替え期を迎えはじめ解体工事が数倍の規模で発生して参ります。現在その安全性が大きな社会問題となっています。私達は都市鉱山の有効活用に徹底して取り組み次の世代に安全安心な社会と豊かな自然を残していくことが使命だと考え、今後も事業活動に邁進して参ります。

代表取締役社長

高橋克実

*Katsumi
Takahashi*



次世代に向けた企業価値向上のビジョンを語る

高橋社長：本日は、記念すべきアニュアルレポート第1号の発刊にあたり、盛和塾^{※1}のソウルメイトである株式会社エイブルの佐藤社長と対談させていただきます。エンジニアリング会社であるエイブル様は、現在ロボットを活用して廃炉に向けた工事を行っており、卓越した技術と素晴らしい実績をお持ちの会社です。弊社もかねてより関東や東北地区での発電所の解体工事等をご下命頂き、大変お世話になっています。本日はお忙しい中お時間を頂きありがとうございます。どうぞよろしくお願い致します。

※1 盛和塾とは京セラ(株)及びKDDI(株)の名誉会長である稲盛和夫氏が塾長を務める経営塾

その社会の問題を解決できることが企業の存在意義になる

佐藤社長：昔の有名な高級ブランドのスーツを着て得意げに振舞う人を見かけることがあります。その人は自分自身が滑稽であることに気づいていません。時代はどんどん変化しており、高級でなくとも、その時代のトレンドに合った適正なスタイルをすることが本当の意味でスマートであると思うのです。

高橋社長：おもしろい例えですね。おっしゃる通りです。企業に置き換えても、その時代の社会問題を解決できることが企業

の存在意義になると考えます。ですから、私たち経営者は、現在および未来の問題や市場の動向を見据えて、それらを解決するための動きをしていかなければならないと思います。

佐藤社長：弊社もさまざまな社会問題や環境問題が重視されるこの時代に、緊急性の高い問題を解決するための仕事にどんどんチャレンジしていきたいと考えています。

高橋社長：エイブルさんが、現在行っておられる福島第一原子力発電所のロボット解体は、まさに緊急性の高い課題であり、その課題に対するチャレンジですね。弊社も、解体事業、環境事業、金属事業のビジネスを通じて、最新のツールを活用しながら社会的、環境的問題の解決に向けて立ち向かっていかなければならないと思っています。そのことが、国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)の取組みにも直接的に貢献できると考えています。

人間は「使命感」と「責任感」を持った時に、自ら燃えて人のために頑張れる

高橋社長：2011年3月11日に起こった東日本大震災で、莫大な被害を受けたと思うのですが、その大変な状況の中、会社をさらに発展させてこられた佐藤社長を尊敬いたします。

佐藤社長：東日本大震災で発生した津波によって、福島県大熊町にある本社は、福島第一原子力発電所事故で立入禁止となっていました。しかし地震によって多くの方がお亡くなりになられた中で、弊社の社員とその家族は、幸いにして、一人も命を落とすことはありませんでした。私たちは、この「生かされた命」をどのように使うべきかと考えました。地震によって福島県は、さまざまな問題が起こっており、真っ先に取り掛からなければならないのが、福島第一原子力発電所の廃炉であったのです。世のため、人のために、私たちは、福島第一原子力発電所の鎮静化に着実かつ一日も早い廃炉の実現を目指し、福島県の復興のために立ち上がりました。そして震災後に福島県の復興に向けた「志の高い」社員も多く入社してくれ、社員数も50名から230名まで増加し、その仲間たちと「やらざるを得ないという使命感」から一心不乱に仕事を行っています。今回の災害を通して感じたことは、人間は「使命感」と「責任感」を持った時に、自ら燃えて人のために頑張れるということでした。

高橋社長：この苦難を乗り越えた社長であればどんな困難なことでも乗り越えていけると信じています。福島県の復旧に向けた道のりのすべてが順調にいった訳ではないと思いますが、苦しい状況の時には、

どのような信念をお持ちになっておられたのですか。

佐藤社長：本当に大変で、どうしていいかわからないことだらけでしたが、その時に、稲盛塾長の教えにある「心を高める、経営を伸ばす」という言葉が頭をよぎり、実践できていたかどうかはわかりませんが、それを信じて前に進むしかありませんでした。

高橋社長：ありがとうございます。社員に思わせるのではなく、社長ご自身が「使命感」と「責任感」を持って取組む情熱が社員に伝染するという事なのですね。

綺麗な心を忘れずに、正しいことを実行する

高橋社長：次に座右の銘についてお聞きしたいのですが、私は「思った通りの人生になる」を座右の銘にしています。人生はすごくシンプルに出来ていて、「思った通りにしかならない」と思います。たとえ無謀と思えるような夢であっても、目標を定め、できると信じて、やるべきことをやっていたら、必ず実現すると思います。ですから、いつも質の高い目標を持ち続けようと心掛けています。佐藤社長の座右の銘はございますか。

佐藤社長：座右の銘といえるかどうかはわかりませんが、私の場合は、ふたつのこと

を心掛けています。ひとつは、「綺麗な心であれば、思いは叶う」です。心は、態度、行動、発言に現れますし、どんなに表面上を取り繕っていても、本心を隠すことはできません。ですから、常に綺麗な心でいることができるように意識しています。ふたつ目は「正しさにこだわる」です。正しいことを徹底していれば、いつかは必ず報われると信じて、これからもそうしていこうと考えています。現実社会で仕事をしていく中では、これらのことを実践することは難しい場合もありますが、それでも「綺麗な心を忘れずに、正しいことを実行する」ことを常に意識したいと思います。

高橋社長：なるほど、そのふたつの理念がエイブルさんのビジネスの原点になっているのですね。

再生可能エネルギーを中心とした「地球環境に優しい」街づくりとロボット化による「人に優しい」企業に成長

高橋社長：将来的にどのような企業を目指しますか。

佐藤社長：再生可能エネルギーを中心とした「地球環境に優しい」街づくりとロボット化による「人に優しい」企業に成長していきたいと考えています。

高橋社長：福島第一原子力発電所の解体

作業においては、遠隔操作ロボットを使用し廃炉に向けた工事を行っていますが、今後はどのような分野でロボットビジネスを展開しようとお考えですか。

佐藤社長：例えば、ハウスメーカーや介護、航空業界などさまざまな分野で応用できる技術が多くありますので、特殊な分野でのロボット化に挑戦していきたいと考えています。今までは、人が現場で行っていた作業をロボット化することで、小児麻痺の人達が現場作業を自宅にいながら遠隔操作で行うなど、新たな雇用の創出にも取り組んでいきたいと考えています。スマートシティの実現に向けて、さまざまな提案を行っていきたくと考えています。高橋社長は東京証券取引所の大変厳しい上場基準をクリアし、昨年8月に上場されていますが、今後の目標は何ですか。

高橋社長：会社を成長発展させ、お客様や社会から喜んでいただける会社になりたいと考えています。本対談にて、改めて経営の本質をさらに強く見直す機会となりました。これからは貴社とは、より一層良きパートナーになれるよう精進してまいります。本日は、大変貴重なお時間を頂きまして誠にありがとうございました。

佐藤社長：こちらこそ、楽しい時間をありがとうございました。



株式会社イボキン
高橋克実
社長

生き残れ
変化に対応
るのは、
できるもの

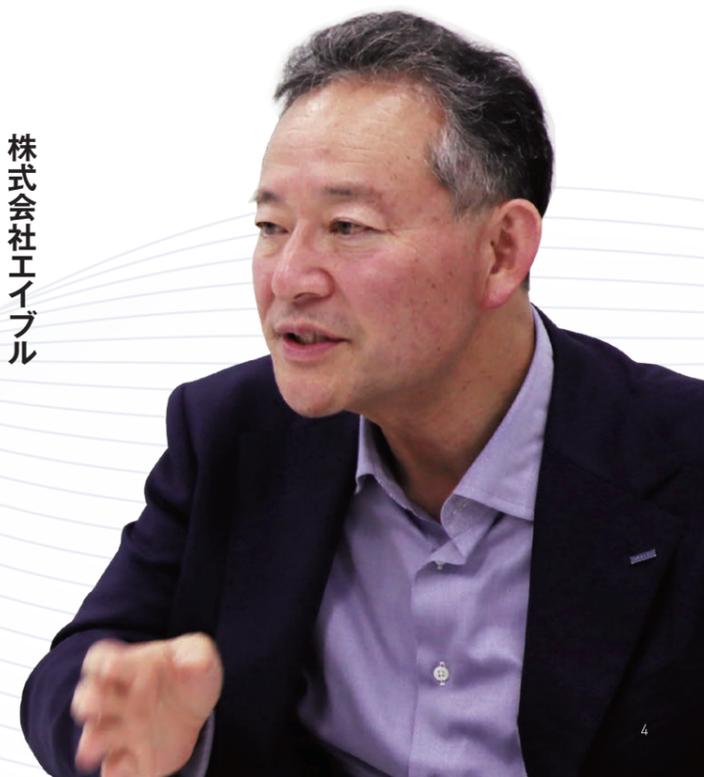
LEADER'S

TOP

MESSAGE

対談

株式会社エイブル
佐藤順英
社長



COMPANY HISTORY イボキンの歴史

TOPICS 2018年8月2日東京証券取引所 JASDAQ市場に上場しました

当社グループは、2018年8月2日東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）市場に上場しました。これもひとえに、これまでお力添えを頂きました皆様のご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。株式上場を機に、株式公開企業としての責任を自覚し、今後ともステークホルダーの皆様へ信頼され、広く社会貢献できる企業となるよう、社員一同、皆様の信頼にお応えすべく一層の努力を重ねるとともに、上場企業としての社会的責任を果たしてまいります。



TOPICS 広いネットワークで 日本に静脈インフラを構築します

2015年3月より 全国の優良企業と包括業務提携

7社間で協力して日本の静脈産業を成長させるとともに、7社が属する隣接業界においてもリーダーシップを発揮し、日本を代表するリサイクルメジャーとして、資源、エネルギー分野における国家戦略の一翼を担う事業を行うことを目指します。

本社及び本社工場	兵庫県たつの市揖保川町正條379
龍野工場	兵庫県たつの市揖保町揖保中198-1
阪神事業所	兵庫県尼崎市大浜町1-31-1
東京支店	東京都千代田区内神田2-16-11-303
PMR工場	兵庫県たつの市揖保町揖保中341
最終処分場	兵庫県たつの市揖保川町馬場字奥ノ池897
グループ企業 株式会社国徳工業	大阪府堺市堺区神南辺町1-54-1



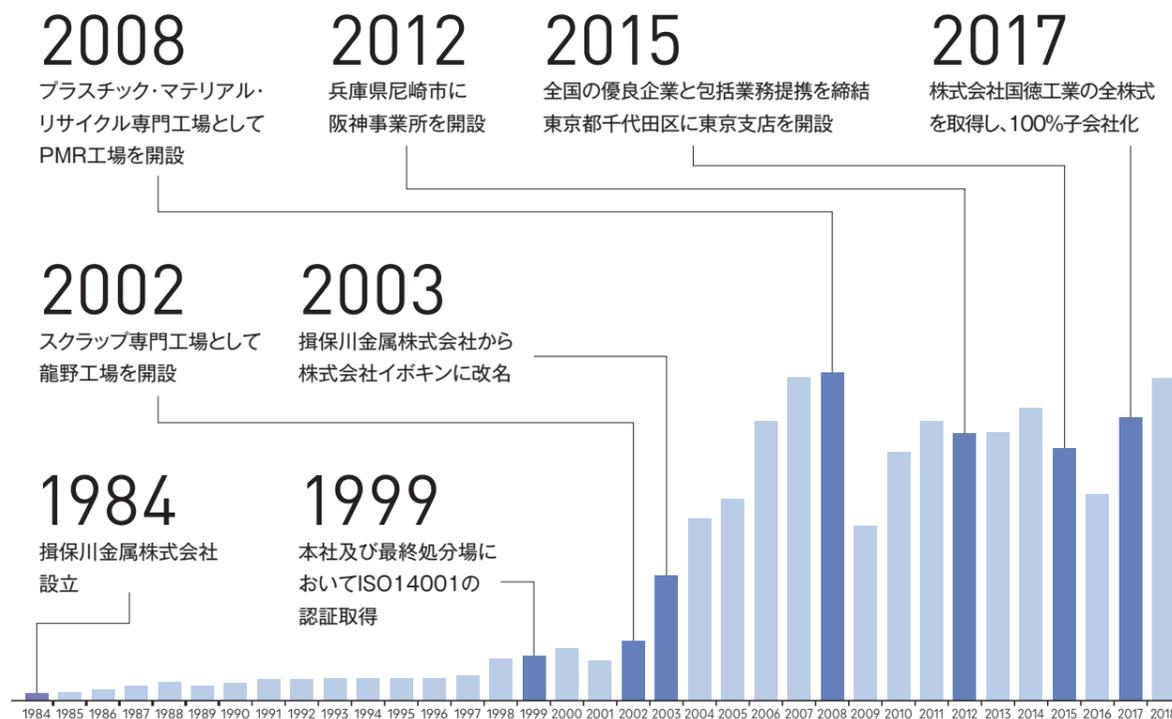
TOPICS 大型シュレッダー選別機を導入しました

当社の環境事業セグメントでは、様々な使用済み製品のリサイクルを行っていますが、小型電子機器や家庭用電気製品などの金属系産業廃棄物のリサイクルに対するニーズは近年ますます高まりつつあります。このような市場環境の中、この度、産業廃棄物中間処理の主力工場である本社工場の大型破碎選別機を最新鋭の設備に更新しました。行政当局の使用前検査も無事に完了し、本格稼働を開始しています。この設備の導入により、排出事業者様のニーズにお応えするとともに、環境保全に対する社会的責任を果たしてまいります。



TOPICS 重量物撤去サービスを開始しました

ビルやプラント解体のほか、2018年6月よりイボキン社内に施工チームを立ち上げ屋内等での特殊な環境の中で行う大型医療機器や産業機械の解体・撤去などの重量物撤去サービスを開始しました。案件の特性に応じて柔軟に対応し、搬出・撤去・リサイクルまでの一連のサービスを提供させて頂いています。また、排出されるスクラップ及び廃棄物も適正な価値及び処理を行うことでさらなるシナジーを生み出しています。



BUSINESS INTRODUCTION 事業紹介

日本を代表する総合リサイクル企業へ

解体事業

法に基づいた安全確実な工事と各事業との連携が可能にする環境にやさしい解体工事を提供しています。建築物の解体をはじめ、プラント・工場・設備などあらゆる解体工事に対応しています。環境事業及び金属事業との連携による徹底したリサイクルを可能にしています。

環境事業

持続可能な社会を目指して産業廃棄物を高品質な資源へと再生しています。ゼロエミッションの実現を目指し、廃棄物の選別を徹底し、当社環境方針の「自己完結型リサイクル」に向かって取組んでいます。



金属事業

金属というかけがえのない資源の100%リサイクルを徹底しています。創業以来培ってきた信頼と実績。金属リサイクル技術と知識を持って、お客様のニーズに合わせた加工を行い、多方面へ納入しています。

運輸事業

産業廃棄物収集運搬のプロは貨物運送のプロでなければならないという信念のもと、環境負荷軽減のための継続的改善を推進しています。プロによる安全、安心の運搬をお約束いたします。

IBOKIN INTEGRATION リサイクルフローの統合

～天然資源の採掘から都市鉱山の活用へ～



かけがえのない財産である **豊富な都市資源** を
 イボキングループの技術（解体・分離・選別・加工・流通）で、
高品質な資源へと再生し日本を代表する
 総合リサイクル企業へと成長していきます。

ESG ESGの取り組み

イボキングループのESG

ESGとは、環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の頭文字を取ったものです。今日、企業の長期的な成長のためには、ESGが示す3つの観点が必要だという考え方が世界的に広まっています。イボキングループは、リサイクルにかかわる社会的課題に真摯に取り組むことで「事業を通じた社会課題解決」を行う企業として、社会に貢献するとともに、グループの持続的な成長を目指していきます。



イボキングループの重要課題とSDGsとの関連付けプロセス



環境 (E)・社会 (S)・ガバナンス (G) の持続的成長を目指す上で重視すべき環境や社会問題に取り組む目標 (SDGs: 持続可能な開発目標) の抽出。

中期的な企業戦略を描く上での重要課題を確認。抽出した取組みが社会的な要求事項と乖離がないかを確認した上で重要課題として特定。

重要課題で抽出した取組みと親和性の高いSDGsとの関連付け。

SDGs SDGsの取り組み

イボキングループの持続可能な開発目標 (SDGs)

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択されました。持続可能な社会の実現のために、イボキングループが対処すべき重要課題 (マテリアリティ) を特定し、社会の一員としての責任を果たすことは、企業活動として必要不可欠です。環境や社会課題に対して、企業としてどのように貢献できるかという視点を持って、ステークホルダーとの対話を通して未来に向けて何をすべきかを考え、人類共通の課題であるSDGsの目標達成に貢献していきます。



	ESG	重要課題	SDGs
	Environment 環境	都市鉱山の開発から豊かな未来社会を目指す	など
		高度循環型社会の実現に向けて	など
	Social 社会	地域とともに	など
		ダイバーシティの推進	など
		働き方改革、職場環境	など
	Governance ガバナンス	コンプライアンス経営の強化	など
		安全へのかかわり	など

環境貢献活動 Environment



地球環境保全への積極的な取り組みは、私たちが果たすべき重要な社会的責任です。ゼロエミッションの考え方をもとに、リサイクル業者として積極的に環境負荷の軽減に努め地球環境保全に注力していくとともに、サーキュラー・エコノミーを担う企業としての取り組みを進めていきます。

都市鉱山の開発から豊かな未来社会を目指す

日本では高度経済成長期の波に乗って、1960年から2000年までの40年間にわたり、ビルや倉庫、工場など膨大な量の建築物が建設されました。よって解体事業の市場規模も一層拡大が予想されます。イボキグループは、高い安全性と高度な技術により年間約200件の解体工事を行っています。事業の拡大を行うことで、都市鉱山の積極的な開発に繋がりが豊かな未来社会を目指します。



高度循環型社会の実現に向けて

事業を通じてより多くの金属スクラップ及び廃棄物を再資源化することが持続可能な社会づくりの一端を担う大切な役割です。イボキグループでは、スクラップを年間約8万トン、廃棄物を年間約3万トン取扱っており、再資源化率は約92%となっています。経営目標である取扱数量増加及び高い再資源化率の実現により高度循環型社会の構築を目指します。



東京タワー
約**21.5**基分の
金属スクラップリサイクルを実現
年間 **82,161t**
再資源化率 約**92%**



TOPICS CO₂削減に向けた取り組み

CO₂削減の取り組みのひとつとして、株式会社アスア様によるコンサルティングサービス「トライエスプログラム」を導入し、環境への貢献のため、日々努力しています。トライエスプログラムのひとつである「エコドライブ」の導入により、1年間にスギの木約588本分のCO₂吸収量を削減することができました。また、運送事業の永遠のテーマである「交通事故撲滅」を目的とした、教育の実施、活動状況の確認、結果分析などさまざまな改善を行っています。



 スギの木 **588**本分の
CO₂吸収に相当

※(走行距離÷基本燃費)×実際の給油量=燃料削減量 燃料削減量×2.58=CO₂排出削減量(2.58=軽油使用時のCO₂排出係数) 杉の木1本あたりの年間CO₂吸収量→14kg

社会貢献活動 Social



地球の持続的な発展に貢献していくことは、私たちの責務です。お客様や地域社会とのコミュニケーションに努めるとともに、社員一人ひとりの適性や能力を活かして社会に貢献し、社会や地域の皆さまとともに成長を続けていける企業を目指しています。

地域とともに

地域・社会貢献活動として、毎月第3土曜日に約1時間かけて工場周辺の清掃活動を行い、地域の方々とコミュニケーションを交わしています。また、地元小学校の児童により工場の壁画を見事な作品に仕上げてくださいました。今後も引き続き、社員への社会貢献に対する意識啓発を行うとともに、地域に貢献できる企業として、様々な活動に取り組んでいきます。



ダイバーシティの推進

イボキグループ経営理念のひとつである「社会の平和と発展を願いお客様の喜びと社員の物心両面の幸福を追求する」を実現・継続するには、社員一人ひとりがそれぞれの個性を活かしながら活躍できる組織の仕組みづくりが不可欠です。このような組織を実現するため、まずは女性の活躍を重要な施策のひとつとして推進しています。当社の管理職に占める女性の比率は14.3%となっており、さらに女性の働きやすい職場環境の拡大に取り組めます。



働き方改革、職場環境

サービスの品質・安全性の確保と労働生産性の向上を両立させながら、社員が生き生きと働ける職場環境を整備することを目的として、以下の取り組みを行っています。

- ・自己啓発支援
- ・ノー残業デーの実施
- ・育児との両立支援
- ・内部通報制度
- ・ハラスメント対策
- ・改善提案



コーポレートガバナンス Governance

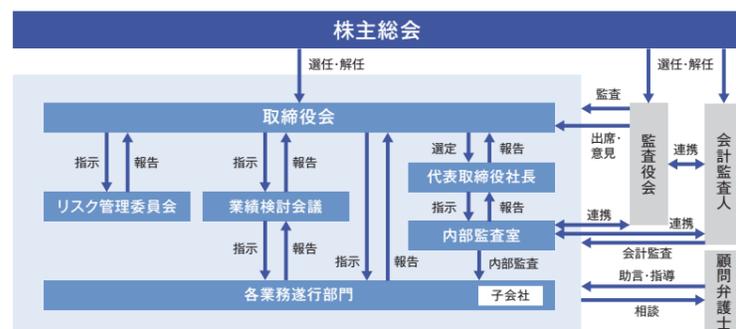


イボキングループは、健全な経営基盤の構築のため、コーポレート・ガバナンスの強化及びコンプライアンスの徹底、ならびにリスク管理の徹底に取り組んでいます。お客様をはじめとして、お取引先・株主・地域社会・従業員を含めたすべてのステークホルダーの皆さまから信頼される誠実な企業を目指しています。

コンプライアンス経営の強化

イボキングループは、継続企業として収益の拡大、効率的かつ健全な企業経営に向けた目的達成、また企業価値の向上のために法令・定款・各種規程を遵守し、形成論理ならびに社会ルールに基づいて誠実に企業の経営職務の遂行を図っています。こうした経営活動が株主のみならず顧客、従業員、地域社会などから信頼され業界・地域・社会への貢献となることを常に意識し、経営の透明性や健全性に加え、企業活動における企業倫理と法令遵守に基づき行動することでコーポレート・ガバナンスの強化・充実に努めています。

コーポレート・ガバナンスの体制

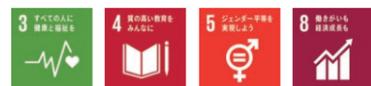


コーポレート・ガバナンス充実への取り組み



安全へのかかわり

安心して働ける職場環境を維持していくことは、企業の基本的な責任のひとつです。従業員の健康維持増進や快適な職場環境づくりを進めることも、社員の信頼に応えながら健全な経営を維持していく上で重要です。このような認識の上で、イボキングループでは、統括責任者(社長)のもと安全管理者、衛生管理者を定め、毎月1回「安全衛生委員会」を開催しています。安全衛生委員会では重点管理目標や活動方針などを決定し、安全衛生の確保や事故防止に向けた具体的な活動を推進しています。



TOPICS

兵庫県警より暴力団追放運動に対する感謝状が授与されました

イボキングループは、2017年に行ったふるさとひょうご寄付金に対して井戸敏三兵庫県知事より2018年11月7日に感謝状を頂きました。この感謝状は、暴力団追放運動に賛同し、協力した団体又は個人に対して、兵庫県より贈られるものです。この表彰を励みとして、今後も引き続き地域社会の発展に貢献していきます。

主催：公益財団法人 暴力団追放兵庫県民センター
受賞した賞の名称：暴力団追放運動功労者表彰



FINANCE 財務ハイライト

回次		第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
決算年月		2014年12月	2015年12月	2016年12月	2017年12月 (連結)	2018年12月 (連結)
売上高	(千円)	5,854,300	5,073,010	4,143,707	5,699,920	6,465,913
経常利益	(千円)	150,006	164,575	91,345	277,693	317,279
当期純利益	(千円)	34,993	39,592	45,777	200,006	223,282
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	-	-	-	-	-
資本金	(千円)	40,000	40,000	47,500	47,500	130,598
発行済株式総数	(株)	800	800,000	810,000	810,000	1,713,600
純資産額	(千円)	1,047,429	1,129,475	1,183,599	1,394,655	2,631,343
総資産額	(千円)	2,688,182	2,635,484	2,589,719	3,604,274	4,813,140
1株当たり純資産額	(円)	1,309,286.96	1,411.84	1,041.90	1,227.69	1,535.66
1株当たり配当額(うち1株当たり中間配当額)	(円)	-	-	-	-	27.00
1株当たり当期純利益金額	(円)	43,742.49	49.49	40.96	176.06	163.03
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	38.96	42.86	45.70	38.69	54.67
自己資本利益率	(%)	3.4	3.6	4.0	15.5	11.1
株価収益率	(倍)	-	-	-	-	9.1
配当性向	(%)	-	-	-	-	16.6
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	-	-	53,193	434,649	425,791
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	-	-	△ 59,941	△ 53,910	△ 190,670
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	-	-	△ 24,990	48,232	836,102
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	-	-	210,128	639,098	1,710,321
従業員数(外、平均臨時雇用者数)	(人)	98	96	92	123	132

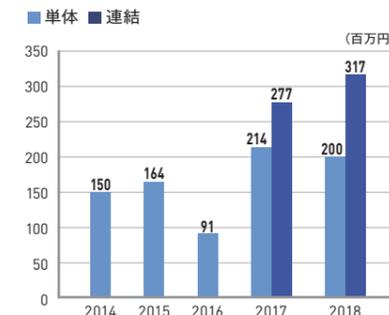
[売上高]



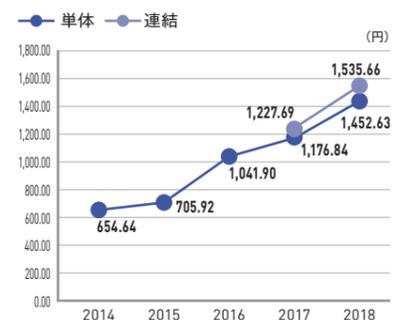
[純資産額/純資産額]



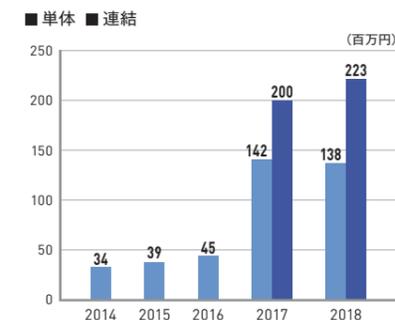
[経常利益]



[1株当たり純資産額]



[当期純利益又は親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益]



[1株当たり当期純利益金額]



(注) 1. 当社は2017年12月期より連結財務諸表を作成しております。2016年12月期以前は単体の財務諸表の数値を記載しております。
2. 当社は、2015年12月19日付で普通株式1株につき1,000株の株式分割、2018年3月30日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、第31期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出した場合の1株当たり純資産額及び1株当たり当期(四半期)純利益金額を記載しております。